

「第一回東北支援ボランティア活動に参加して」

小手指アライアンス教会
牧師 久富昭彦

二〇一一年三月一日、東北で起きた地震と津波によって、多くの命と家屋が一瞬にして失われました。翌年の二〇一二年三月二十九日、日本アライアンスミッションは、石巻にニューライフセンターを宣教と支援活動の拠点として設立し、献堂式を行いました。あれから、アライアンスミッションによって支援活動が始められ、日本アライアンス教団は一年半かけて、東北にボランティアを派遣するため準備をしてみました。そして、八月二十六日(月)から二十九日(木)まで、日本アライアンス教団から、東北支援のために初めてボランティアが派遣されたのです。参加されたのは、東京教会から藤井哲夫牧師と他教会員の櫻田さんご夫妻。狭山伝道所の三好晴

夫牧師、小手指アライアンス教会の牧師久富昭彦の五名でした。

埼玉県所沢市の小手指教会を車で出発し、石巻に到着したのは、午後の五時近くでした。初めにニューライフセンターに集合し、代表のクロップ・アラン宣教師、コンサルタントのリーサ・ブライアンさんと、これからの三日間の計画を確認しました。宿泊は、石巻クリスチャンセンターに移り、男性は米軍のテントに宿泊しました。翌日は、朝の九時から男性は地元の水産加工所でボランティア活動。女性性は、渡波キリスト教会(鈴木牧師)で行われている、ボランティアの鍼灸治療の受付のお手伝いをしました。男性のボランティアは午前、午後も行う予定でしたが、その日、魚の水揚げが少なく、

午前中で仕事が終わりと、男性は子どもの被害が多かった大川小学校を視察しました。夕方にはニューライフセンターに集合し、一日の仕事を取り返り分ち合いの時間を持ちました。

三日目は九時半にニューライフセンターに集まり、讚美と祈りの時間を持ちました。その後、女川港、日和山公園と周辺、仮設商店街等、石巻の現在の被害状況を視察し、ニューライフセンターに戻り、午後二時半から、被災者の小野寺さんから当時の状況と現在の仮設住宅での生活についてお話を聞くことができました。

今回のボランティアの活動で、あまり大きな働きをすることはできませんでした。しかし、現地の人々と交わり、お話を聴くことによつて、参加した私たちは大きな恵みをいただきました。実は、現在のボランティア活動は、そのことが重要なのではないかと思えます。初期の頃は、瓦礫を片付け、家を建て直すことが必要でした。しかし、今は、目に見える生活は回復してきました。しかし、人々の心の中は、まだ、傷ついています。今、私たちに必要なことは、そのよう

な方々の心の声に耳を傾けることではないかと思えます。それこそが、クリスチャンのボランティア活動であり、イエス様が私たちに求めておられることではないでしょうか。あなたも、ぜひ、次のボランティアに参加してみませんか。

